



ヒューマンコミュニケーショングループ ニュースレター
 2012年度 No. 1
<http://www.ieice.org/hcg/jpn/>



— Contents —

- ◆ 新運営委員長のご挨拶
- ◆ HCGシンポジウム2012の投稿案内
- ◆ FIT2012開催案内
- ◆ 未来世代から見たコミュニケーション科学の魅力と学習意欲向上研究会（CML）研究会 活動報告

新運営委員長挨拶
 HCGで“人間を中心に据えた「コミュニケーション研究サロン」を楽しもう”

2012年度ヒューマンコミュニケーショングループ運営委員長
 武川直樹（東京電機大学）

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)の今年度の委員長を務めさせていただくことになりました。私の研究の興味は、人と人・人と機械のコミュニケーション、ヒューマンインタフェース、インタラクション、画像処理にあります。また、趣味は、人と飲みながらのコミュニケーション（とくに学会の懇親会？）、歩くより少し速いジョギングです。どうぞよろしくお願いします。

私は、元は工学ばりばりの画像符号化研究に携わっていましたが、次第に人のコミュニケーションに関わる研究に興味を持つようになりました。今は、特に、視線、顔の表情、顔の向き、ジェスチャー、言語を介した人の行動を調べて、その知見を人と機械のコミュニケーションに役に立てようという研究にかかわっています。人を調べる研究

には心理学、社会学、言語学など広範な分野の知見が必要ですが、HCGはそのような広範な専門家が集まっていますので、2004年にときどきしながらヒューマンコミュニケーション基礎研究会（HCS）に発表しました。初めてHCSに発表をしたときに、「コミュニ

ケーションを真面目に研究するのであれば、どんな研究でもウェルカム」という研究会の雰囲気がとても楽しく、以後、研究室の研究成果のメインの発表場所として、たくさん発表させていただくようになりました。議論好きの研究者による楽しい議論ができてうれしく思える場所でした。また、研究者が切磋琢磨する生き残りゲームのような研究現場も悪くはありませんが、HCGはコミュニケーション研究をコミュニケーションの種にして楽しく過ごすサロンの雰囲気があり、文系も理系もお互いの価値観が（その違いも含めて）共有できるところが面白く感じます。それは他の学会ではあまり見られない大きな特徴と感じます。

さて、発表の場とせずずっとHCGのサービスを受けておりましたが、サービスをする側になりなさいと声がかかりまして、HCS専門委員会の委員長を務めた後、今回はHCGの委員長をお引き受けることになりました。私が、HCGでの研究発表を楽しんできたように、会員の皆様が研究発表を楽しめるよう、サービスに一生懸命に取り組みたいと思っています。HCGは、人のコミュニケーションに興味を持つ、工学、心理学、社会学、医学、看護学、霊長類学、文化人類学など様々な分野の専門家が集まり、また、対象とするフィールドも、コミュニケーションをキーワードにして仮想空間コミュニケーション、マルチメディア、会話、料理、SNS、教育、医療、福祉、障害者支援など様々なところで多様なところが大きな特徴です。組織としてもヒューマンコミュニケーション基礎

研究会、ヒューマン情報処理研究会、マルチメディア仮想環境研究会、福祉情報工学研究会の第1種研究会、さらに第2種から第3種まで含めて11の研究会を擁するまでになりました。これだけの多様性を持つ研究者が集まる学会組織は、ここだけであると自負してよいのではないかと思います。「人間を中心に据えた」コミュニケーション科学とその応用を

目指す研究者たちの熱い議論によって、これまでの縦割りの研究分野を横につながり、新しい研究パラダイムを創造し、私たちの生活を変える装置やシステムの登場を期待したいと思います。一方、HCGが「人を中心に据えた」研究のシーズを生み出す場であり続けるためには、組織のサイズではなく、組織としてのパワーを持ち続けること

が必要です。現在は、HCGの各研究会はそれぞれ自律的に求心的な役割を果たしていますが、さらに研究に興味を持ち始めた学生の研究の発表の場を提供し、育てる場を提供すること、活躍中の研究者には、議論の場と、論文発表の場を提供することをHCG全体の仕組みとして作るのが課題の一つと考えます。その一つとして、本年度の熊本で開催されますHCGシンポジウムでは、研究を始めたばかりの若手が発表しやすいことを考慮して2ページの投稿、学生セクションを導入します。若手のみなさんの多くの発表を期待しております。また、HCGは論文誌を持ちませんが、各ソサイエティの論文誌編集委員会の協力を得て、我々の分野の研究をソサイエティ論文誌の論文として発表の場を作っています。今後も、研究発表、研究論文の成果によって多くの人に影響を与えられるようにできればうれしいと思います。HCGが抱える課題はたくさんありますが、今後に向けて研究コミュニティの場を提供できるように運営委員

会一同が努力をして取り組みたいと思いますので、HCGの発展に向けて多くの皆様からのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG) シンポジウム2012への投稿のご案内

HCGシンポジウム運営委員会副委員長 (HCG企画幹事)
湯浅将英 (東京電機大学)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)として、毎年12月恒例となりましたHCGシンポジウムへの投稿のご案内です。
2010年度の宮崎シーガイア、2011年度の高松市サンポートホール高松を経て、熊本市くまもと森都心(しんとしん)プラザでの開催が予定されています。

会場：熊本市 くまもと森都心(しんとしん)プラザ

<http://stsplaza.jp/>

会期：2012/12/10(月)～12(水)

発表申込締切 2012年09月03日24:00 JST 月曜日

発表原稿締切 2012年10月10日24:00 JST 水曜日

副題：～ 新たな流れを作り出すパワーを ～

招待講演：熊本サンクチュアリ所長 友永雅己先生(12/10午後に御講演予定)

発表申込や最新情報につきましては下記をご覧ください。

<http://2012.hcg-symposium.org/>

HCGシンポジウムは、ヒューマンコミュニケーショングループに属する1種・2種研究会の研究交流を横断的かつ濃密に行うために、総合大会やFITとも異なり、研究会開催形式に近い形で発表が行われるのが特徴です。

ヒューマンコミュニケーションに関する各種研究、さらに新しい研究領域からの野心的、先進的な研究を積極的に御発表いただきたくご案内申し上げます。

本シンポジウムでは、自身の研究をアピールし議論する口頭発表に加え、より時間をかけて深く議論するためのデモやポスターによるインタラクティブ発表も募集いたします

(希望するオーラル発表者はインタラクティブ発表にも参加してさらに議論を深めることもできます)。多くの方に御発表、御議論いただくことで、「人を中心に据えた」情報

通信技術の新たな研究のシーズを生み出す場、また、これからの時代の流れを新たに作り出すパワーを生み出す場となるのが本シンポジウムの目標です。

本シンポジウムでは、発表(口頭発表/インタラクティブ発表)で優れた発表に対し下記の賞を設け、受賞者を表彰いたします。

- ・学生口頭発表賞
- ・最優秀インタラクティブ発表賞(一般学生問わず)
- ・優秀インタラクティブ発表賞(一般)
- ・学生優秀インタラクティブ発表賞

参考までに、2011年度の高松サンポートの開催時には、オーラル発表50件、インタラクティブ発表14件が寄せられ、参加者は127名でした。
皆様のご投稿ご発表を心よりお待ちしております。

また、今年度も、シンポジウムに引き続いて、電子情報通信学会論文誌「情報・システム：D」でヒューマンコミュニケーション特集号が予定されています。
シンポジウムでブラッシュアップした研究をさらに本特集号にご投稿頂ければ幸いです。

！HCGシンポジウム2012では新たにやりたい企画イベント、アイデアを募集しており

ます。ぜひ運営委員会までお知らせください。

問い合わせ先は：運営委員会

contact [at] hcg-symposium.org

FIT2012(第11回情報科学技術フォーラム)のご案内

HCGシンポジウム運営委員会副実行委員長(HCG企画幹事)
大塚真吾(神奈川工科大学)

電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ、電子情報通信学会情報・システムソサイエティ、および、情報処理学会が共催している、FIT2012(第11回情報科学技術フォーラム)の開催をお知らせいたします。

今年度は法政大学 小金井キャンパス(東京都小金井市)において開催されます。

会場：法政大学 小金井キャンパス

会期：2012年9月4日(火)～6日(木)

最新情報につきましては下記をご覧ください。

<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2012/>

例年と同様にFIT2012においても、査読付き論文と一般論文の応募を受け、査読付き論文から採択された論文を対象に、船井ベストペーパー賞とFIT論文賞が選定され、FIT2012会場にて表彰が行われます。また、若手研究者の論文発表を審査して選定するヤングリサーチャー賞があり、この賞は、聴講者による現地投票も受け付けています。参加者の積極的な聴講と投票をお願いいたします。

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2012船井業績賞は、はこだて未来大学の中島秀之先生の受賞が決定しており、9月5日に行われる表彰式に続いて「サイバーアシストからスマートシティへ：ITによる社会のデザイン」と題した記念講演が行われます。

その他、以下のような多数のイベントが企画されておりますので、FIT2012に是非ご参加下さい。

9月4日（火）

- ・スマートフォン実世界センシング×コンピューティング
- ・e-サイエンス：超大規模実問題に挑戦するアルゴリズムと計算技術
- ・ビジネスで生きる機械学習技術
- ・第16回パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト

9月5日（水）

- ・HTML5時代におけるサイバーワールドのインテグレーション
- ・生体・感覚情報計測技術の基礎
- ・高度IT資格制度「情報処理学会モデル」
- ・情報学研究における質的アプローチの可能性を探る

9月6日（木）

- ・データ活用型科学の将来展望
- ・世界初、統一的评价基準に基づく電子透かしコンテストー 昨今の電子透かし技術の実力や如何に！
- ・スパース信号処理の最前線
- ・安心なスマートフォンの未来を考える～スマートフォン/タブレットの威力 とセキュリティ対策について

未来世代からみたコミュニケーション科学の魅力と学習意欲向上研究会（CML） 研究会活動報告

<http://saas01.netcommons.net/mogai/htdocs/>

幹事

小粥幹夫（東北大学）

本研究会は、心理学、教育学さらには脳科学の知見をベースに、高校生を中心とした未来世代の学びの意欲についての理解を図り、高校の先生との連携を通してコミュニケーションの魅力を伝え、さらにはその推進のための持続的な社会システムの構築を目指しています。本学会企画室内での高校生の啓発活動の進め方についての議論を経て、昨年の4月にHCGへの参加を認めていただきました。活動の出発点として計画した3月14日の総合大会でのシンポジウムは、東日本大震災によって出直しを余儀なくされましたが、「大震災からの学びを未来世代に伝えるために」とのテーマで、認知心理学会との共催で5月29日に東京で復活させました。その後、被災地の高校生を招待したワークショップでは「特別な体験を学ぶ意欲に高め」、高校の先生グループとの繋がりを深化・拡大、本年3月の岡山での総合大会ではこれら1年間の活動で報告しました。意欲についての現状分析、メタ認知の活用についての基調講演、高校の授業の例紹介を加えたシンポジウムには、高校教員19名（主として中国・四国地方）を含む62名（大会企画では最大）の参加を頂き、パネル討論では学会会員にできることを中心に活発な意見交換を行うことができました。こうした当面のシンポジウム開催やフォローに追われて、HCG全体の活動には直接参加できるには至りませんでした。本学会会誌10月号の小特集「人間中心の観点での東日本大震災からの創造的復興」の編集をお手伝いして、東北地方に関係のある方に原稿を執筆いただいたのに加えて、「創造的復興」の力の源泉を探り、「志を同じくする仲間やボランティアの小さな積み重ねが、想定や前提の上になりつつ科学技術や行政の限界を補完」することを訴えました。大震災の提起した課題は大きく、この小特集でカバーできることはごく一部であり、今後専門家の力によってより広く、深い分析と改善・解決への努力が払われ、日本再生への道が開かれることを願っています。HCGの皆様こそ、こうした役割を担っていただけると確信して、12月のHCGシンポジウム、来年3月の総合大会でテーマとして取り上げ、議論を深めていただくことを提案しています。皆様の積極的なご参加とご支援をお待ちしております。また、本研究会の持つ高校の先生との連携NWを活用いただき、各研究会におかれましても「未来世代の意欲」について取り組んでいただくことをお願い申し上げます。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、詳しくはHCG ホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください。

電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
<http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

Copyright (c) 2012 IEICE All Rights Reserved.



☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで会員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨henkou@ieice.orgまでご連絡下さい。)
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
電子情報通信学会 会員サービス部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659